ECOMUSE

資料館だより

NO.58
2016年
11月号

過去と未来がひびきあう
ーようこそ、エコミューズへ。
www.aozora.or.jp/shiryou/

あおぞら財団付属
西淀川・公害と環境資料館
エコミューズ

◆ 西淀川公害の教材づくりが新聞で紹介されました！ ◆

公害 語り部から教材

西淀川の大気汚染公害

大阪市西淀川区では1900年ごろから、大阪湾沿岸の工場から出る排煙やディーゼル車の排気ガスなどにより、大気汚染が深刻化し、ぜんそくなどの健康被害が広がった。70年以降、住民は発生源の企業や国などを相手に新訴（1～4次）を起こし、98年までに和解した。

西淀川の大気汚染

住民運動を追体験

2016年8月21日　毎日新聞朝刊（大阪版）

公害に関する参加型教材づくり（地球環境基金助成事業）。2016年度はいよいよ、大気汚染公害が激甚だった時代の西淀川の状況を追体験するシミュレーション教材の開発に着手しています。

この教材では、3～5人のグループを作り、60年代の西淀川に住む家族と見立てます。登場する5つの家族は、工場労働者、工場経営者、新規移住者、両親が教員と看護師、代々続く漁師…などの設定で、それぞれ、子どもが公害病にかかったり、父が公害病になるけれど仕事に支障が出ないよう隠したり、運動に立ち上がったり、公害反対運動に警戒心を持ったり、事情は様々です。さらに「状況カード」を配布。大気汚染公害が悪化し健康被害が広がってきた第1段階、公害被害へ対抗する住民運動を起こそうという第2段階、裁判を決意する第3段階、そして10年後の第4段階と、時の経過に沿って4段階を体験します。異なる事情をもつ家族どうしが地域で共存しながら、変化する各局面でどう判断し行動するかを追体験するわけです。

この教材は7月20日には、佛教大学の授業で初披露しました。その際、毎日新聞の取材を受け、「西淀川の大気汚染　公害、語り部から教材　あおぞら財団、住民運動を追体験」という見出しで掲載されました（大阪版、8月21日付）。そしてさらに改訂を加えた教材を持って8月7日に開催された開発教育全国研究集会の分科会にのぞみました。その折の様子の詳細は『開発教育』63号（2016年12月発行予定、開発教育協議会刊）に掲載されますので、ご関心のある方はぜひご覧ください。

8月7日 開発教育全国研究集会の分科会

8月9日JICA関西の分科会

2015年度に開発したロールプレイ教材「あなたならどうする？」も好評です。今年はJICA関西で開催された「第13回多文化共生のための国際理解教育開発教育セミナー」の分科会でも実施しました。

解説資料なども編集し、来年度にはみなさんにご活用いただく予定です。ご関心のある方はぜひお問合せください！　（栗本知子）

◆ 大阪市の小中学校新任教員研修を実施しました ◆

大阪市教育センター教職員地域研修推進委員会の依頼で、市内北ブロック（福島区、此花区、西淀川区）の小中学校に勤める2年目の教員76人に研修を行いました。

語り部は40代の前田春彦さんで、公害を今につながる身近な話と捉えていただけた様子でした。その上で、「公害病になったら」「大気汚染を放置したら」のどちらかをテーマに、どんな影響が起きるか、グループで連想して考えました。「公害病になったら」→「学校に通いにくい」「教育が十分受けられない」「就職が難しい」と考えた人もいれば、「大気汚染を放置したら」→「元に戻すコスト増」「公害病で働き手が減る」「税収が減る」と経済面に注目した人もいました。まず教員の方に関心を持ってもらうことで、西淀川公害の授業が新たに広がると嬉しいです。　（栗本知子）